（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	楽らく療養通所　プルーンベリーハウス

公表日 2025年　3月31日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	感染対策においてスペースの確保、カーテン、パーテーション等を使用している	定められたスペースが確保できている
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	看護師の加配加算を取得し質の向上に努めている。勤務形態を記録し、適正運営に努めている	適切な職員の配置数を満たしている
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	ワンフロアの開けた環境で、見渡しやすく目が行き届く環境である。バリアフリー化、トイレの手すり等あり、設備は整っている。	適切にバリアフリー化されている
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	使用した物品やベッド周囲は使用後に消毒、清掃している。個々に応じて環境を工夫している。	継続して取り組みを行う
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	5	2	個室があるため必要な場合は使用できる。個別のスペースをマットなどを使用し確保できている。	継続して取り組みを行う
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	2	研修として実施し、周知、実践に努めている	より明確にPDCAサイクルを業務改善に取り入れたことがわかるよう業務内容の精査を行う
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	事業所内の意見を取りまとめて、業務改善につなげている。取り組みが継続できている	本取り組みを公開し、保護者には広報誌やホームページへの案内を行い周知に努めている
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	都度、職員の意見を聞き取り改善できるよう取り組んでいる	本取り組みを公開し、保護者には広報誌やホームページへの案内を行い周知に努めている
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2	運営推進会議、安全サービス管理委員会を開催し外部からの意見を聞き取りし業務改善につなげている	継続して取り組みを行う
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	ハラスメント、人権擁護、感染対策等の質の向上為の研修を1回/月程度開催出来ている	制度上必須な研修が実施できている。取り組みを継続する
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	5	1	スタッフより意見を集め事業所独自の支援プログラムの作成を行っている	継続して取り組みを行う
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	周囲、環境からの刺激や、職員との交流による刺激を受けることができるように計画を作成している	個別に応じた活動をし状況により集団での活動も取り組んでいる。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	毎日の朝礼で支援内容の確認、業務内容の打ち合わせを行い、各職員は役割や流れの確認ができている。業務中に変更があればリーダーを中心に適宜対応している。	継続して取り組みを行う
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	児童発達支援ガイドラインに沿って計画を立案し、計画に沿った支援を行っている	継続して取り組みを行う
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	契約時に当事業所のアセスメントシートを使用し、家族が記入したものを使用している。	継続して取り組みを行う
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	ガイドラインに沿って計画立案・作成ができている	継続して取り組みを行う
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	2	職員から意見を集め、立案時、モニタリング会議で検討し、意見を汲んで立案することができている	継続して取り組みを行う

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	4	全職員から意見を集め、立案時、モニタリング会議で検討し、固定化しないよう留意している	本人の課題に合った活動プログラムを固定化しないよう計画に盛り込む
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4	3	周囲、環境からの刺激や、職員との交流による刺激を受けることができるように計画を作成している	個別に応じた活動をし状況により集団での活動も取り組んでいる。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	朝礼で支援内容の確認、業務内容の打ち合わせを行い、各職員は役割や流れの確認を行い業務中に変更があればリーダーを中心に適宜対応している。	継続して取り組みを行う
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	3	3	職員間で話をし情報の共有をしている	継続して取り組みを行う
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	連絡用紙を使用しその日に行った事、変化など記載ができている。家族との共有もその日のうちに出来るようにしている。	継続して取り組みを行う
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	確認表を作成、共有し、計画的にモニタリングを行っている。家族と連絡を取り、必要時にはモニタリングを実施する。	継続して取り組みを行う
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	管理者、児童発達支援管理責任者が必ず参加している	継続して取り組みを行う
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	適宜連携を行うことができている。	継続して取り組みを行う
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	2	適宜連携を行うことができている。	継続して取り組みを行う
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	必要時、依頼に対して対応できている	継続して取り組みを行う
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	0	0		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	0	0		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	0	0		
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。	2	3	必要時児童発達管理責任者が対応していくようにしている	継続して取り組みを行う
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	6	感染症の観点から交流が出来ていないのが現状	状況を見て交流、意見交換の場を設ける必要がある
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	1	専用の連絡帳を使い、利用日毎に情報共有と意見交換を行っている。計画立案時にも現状や達成度についての意見を聴取している	継続して取り組みを行う
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	6	個別に支援内容、支援方法を伝え、共有することができている。療育上の質問についても回答できている。	継続して取り組みを行う
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	1	契約時に書面で順に説明し、理解と同意が得られている。わかりやすいように重要事項説明書は両面1枚にまとめている	継続して取り組みを行う
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	7	0	ガイドライン、重要事項説明書を説明し、計画に対して同意を得ることができている	継続して取り組みを行う

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	1	計画配布時に家族の確認後に同意を得ている	継続して取り組みを行う
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	利用日毎に必ず保護者と直接意見交換を行っている。不安や意見等があった場合は個別に時間をとって聴取し、解決できている。	継続して取り組みを行う
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	6	コロナが第五類に移行したが感染症は減っておらず開催はできていない	状況を見て保護者同士の交流を促進する交流、意見交換の場を設ける必要がある
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	適宜、苦情対応フローチャートに沿って対応を行っている。	継続して取り組みを行う
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	広報誌を4回/年作成、配布し施設内での活動を発信している	継続して取り組みを行う
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	個人情報は営業時間外は鍵付きのロッカーに保管し、事業所外の持ち出しを禁止している。また職員は得た情報を守るよう努めている	継続して取り組みを行う
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	保護者と協力し、知識面、環境面からサポートを行い、チームで意思を汲み取る能力を向上させられるよう努めている。	研修の受講を検討する
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1	消防訓練に地域住民の方に参加していただきスタッフと一緒に消火器の取り扱いなどおこなっている	継続して取り組みを行う
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	緊急時対応についてはマニュアルを作成し、重要事項説明書にも記載している。防犯、感染対策もマニュアルを作成し、周知するよう努めている	継続して取り組みを行う
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	BCP委員会への参加、研修、訓練を年間を通して行えている	継続して取り組みを行う
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	事前に情報の共有ができている。非常時の対応はマニュアル化されており、同意を得ている	継続して取り組みを行う
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	1	適切な対応ができている	継続して取り組みを行う
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	年間の研修、訓練の予定を立てており計画通りに行う事ができている	継続して取り組みを行う
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	7	0	安全教育の様子を広報を通して保護者へお知らせしている	継続して取り組みを行う
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	事例の共有と検討ができている。定例会議において職員間で共有と検討を行っている。	継続して取り組みを行う
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	今年度も防止委員会より既に事業所内研修が実施されており、今後も継続して啓発を続けていく	継続して取り組みを行う
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	2	身体拘束委員会にて対象者のアセスメントを行いやむを得ず身体拘束が必要と判断された時は保護者の同意を得ている	継続して取り組みを行う